

令和2年度未来につながる持続可能な農業推進コンクール受賞者一覧（九州農政局関係）

1 生産局長賞

市町村名	受賞者	タイトル	部門
長崎県五島市	株式会社 アグリ・コーポレーション	オーガニックをプラットフォームとした街づくり	有機農業・ 環境保全型 農業部門
熊本県宇城市	有限会社肥後あゆみの会	人と自然の調和 ～自然を大事に育てられたトマトは人にとっても優しい！～	有機農業・ 環境保全型 農業部門

2 九州農政局長賞

市町村名	受賞者	タイトル	部門
佐賀県佐賀市	シギの恩返し米プロジェクト推進協議会	人と生き物や自然環境との持続的な共生を育む米づくり	有機農業・ 環境保全型 農業部門
鹿児島県 熊毛郡屋久島町	有限会社 屋久島八万寿茶園	屋久島らしい農業の実践	有機農業・ 環境保全型 農業部門

株式会社アグリ・コーポレーション

有機農業・環境
保全型農業部門

生産局長賞

法人名：株式会社アグリ・コーポレーション
所在地：長崎県五島市

面積：40ha
構成員：36人
栽培品目：かんしょ（有機安納芋）

取組の紹介

【40ha で有機農業を展開】

- 代表取締役の佐藤氏が、10年前に五島市に移住し、就農。現在、自作地と賃借地を合わせて40haで、有機かんしょの育苗から収穫まで自社で実施。
- 2020年には全農地で有機JAS認証を取得。2020年には青果用有機かんしょ300t、加工品用有機かんしょ100tの合計400tを収穫予定。



ほ場の様子

【加工品開発・輸出の取組】

- 2014年7月、生産から加工、販売、流通までを一貫して自社で行う仕組みを構築。
- 香料・着色料・保存料を一切使用しない赤ちゃん用の食べるおしゃぶり「オーガニックおしゃぶー」や、端材を原料としたかんころ餅等、無駄のない農産物利活用を実施。
- 国内で取引需要が少ないS、2S、3Sサイズを、オーガニック需要が高い香港を中心に市場を開拓し、有機安納芋を週1トン出荷。



「オーガニックおしゃぶー」

【輪作・土壌診断の取組】

- 有機かんしょと大麦の輪作を行い、春まで大麦を栽培することにより、夏季の雑草を抑制。機械除草が不要になっている。
- 3年に一度の土壌診断を長崎県五島振興局の指導のもとで行い、適正な土づくりを実施。

【耕作放棄地の再生】

- これまで10haの耕作放棄地・遊休農地の解消に取り組んできており、今後、毎年10haの耕作放棄地の解消を目指し、復旧した農地の一部は移住者や有機農業者へ貸し出し、地域農業者の経営支援を行っている。



耕作放棄地・遊休農地の解消

HP・SNS等

有限会社 肥後あゆみの会

生産局長賞

法人名：有限会社 肥後あゆみの会
所在地：熊本県宇城市

面積：16ha
構成員：28人（パートを含む）
栽培品目：水稲、トマト、しょうが、
かぼちゃ、かんきつ等

取組の紹介

【トマトの有機栽培】

- 2001年10月に、有機栽培で自立できる農業を目指し、かんきつ農家4戸、野菜農家2戸の合計6戸で会を設立。
- トマトの有機栽培を県内でいち早く成功させるなど栽培技術を確立させ、現在はトマト5haを中心に、水稲や露地野菜等を合わせて16haのほ場で有機JAS認証を受け、大規模経営を実現。



栽培に用いる野草堆肥

(左：堆肥化初期、右：堆肥化終盤)

【安定出荷・販路確保の取組】

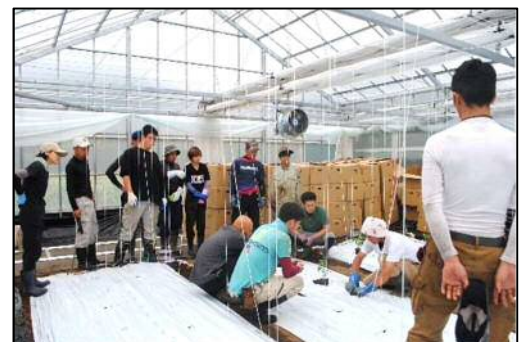
- 2015年には自社の農産品加工所を設立、2016年には共同集出荷施設を整備。地域で生産された有機農産物の安定供給と更なる生産拡大につなげている。
- 生産物の栄養分析（糖度、ビタミンC、硝酸イオン、抗酸化力）を行い、十分な品質確保がなされているか確認。商談においてデータを活用。



生産物の栄養分析結果

【研修生の受入れ】

- 研修生の受入れを積極的に行い、研修後は農地やハウスを手配、生産した有機農産物をあゆみの会を通じて販売するなど、研修生の独立と経営安定を支援。
- 独立後の研修生を支援するため、NPO法人熊本県有機農業研究会において生産部会を立ち上げ、県内の流通業者に呼びかけて販売網を作る予定であり、県内の有機農業推進体制づくりにも貢献している。



研修生への指導

(右から2番目が澤村氏)

HP・SNS等

HP: <http://higoayuminokai.co.jp/>

シギの恩返し米プロジェクト推進協議会

有機農業・環境
保全型農業部門

九州農政局長賞

氏名：シギの恩返し米プロジェクト推進協議会
所在地：佐賀県佐賀市
応募区分：団体の部
面積：2ha
構成員：18人
(うち農業者6人)
栽培品目：水稻

取組の紹介

【協議会発足の経緯】

- 2015年5月、東よか干潟がラムサール条約湿地として登録されたことを契機に、多様な生き物と共生する米づくりを地域で目指すことを目的に2017年7月、シギの恩返し米プロジェクト推進協議会（県、市、JA、大学、民間企業）が発足。

【生物多様性保全の取組】

- シギ等の水鳥の飛来を促すため、水田を餌場や遊び場として提供（冬期湛水）。
実際、多数の水鳥の飛来が確認された。
- 地区のクリーク（水路）に生息する多様な水生生物の保全のため、地元大学との共同研究により水田魚道を設置。
実際、クリークと水田を往来する生物を確認。

【販売について】

- 生産された米は「シギの恩返し米」としてブランド化し、JA直売店や関東の米販店でこだわりの米として販売。

【地元学校給食への提供】

- 令和2年11月から地元学校給食へ「シギの恩返し米」を提供するとともに食育を実施。

HP・SNS等

HP: <http://www.umasaga.jp/shigimai-project>



冬水たんぼに飛来した水鳥



設置した水田魚道



商品化したパッケージ

有限会社屋久島八万寿茶園

有機農業・環境
保全型農業部門

九州農政局長賞

氏名：有限会社屋久島八万寿茶園
所在地：鹿児島県熊毛郡屋久島町
応募区分：個人の部

面積：6.53ha
構成員：7人
栽培品目：茶

取組の紹介

- Uターンした高校の同級生3人が集まって、1985年に会社設立。
1992年より一貫して茶の有機栽培を実施。
- 土壌診断を毎年実施し、施肥量調整を行いながら土づくり並びに品質向上に取り組んでおり、2018年、日本茶 AWARD 審査員奨励賞受賞。



自社製品（屋久島茶）

【海外への販路拡大】

- 2012年から輸出を開始し、2014年からEUを輸出先の中心とする。
煎茶のみでなく、紅茶、玄米茶、ほうじ茶、白茶を販売。
- 2019年には、現地の消費者、販売店とのつながりを強化することを目的に、ドイツ、スイス等計4都市でセミナー及び試飲販売会を開催。



海外の茶専門店でのセミナー開催

【地域とのつながり】

- 自社直売店は、自社商品のみならず島内事業者の商品（極力、オーガニック志向のもの）も取り扱い、地元客と観光客が集う店となっている。
- 日本茶インストラクター資格を有する社員が島内の小学校でお茶の淹れ方教室を開催。
また、課外授業の受入を実施。
- 島内のオーガニックを掲げる仲間と共同で「やくしまオーガニックマーケット（有機農産物販売、ワークショップ、フリーマーケット等）」を主催。島民へのオーガニック啓発活動に努める。



やくしまオーガニックマーケットの開催

HP・SNS等

HP: <http://www4.synapse.ne.jp/hachimanjyu/>